

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人どんぐり福祉会
施設名	つるばみ保育園
報告者（役職）	乾 みや子（ 法人本部 専務理事 ）
住所・連絡先	大阪府東大阪市小若江4丁目4-13
	☎ 06-4307-6715
	E-mail info@donguri.ed.jp

○タイトル（保育計画）

乳幼児の夢をはぐくむ和太鼓とカプラ購入計画

○主な助成備品

和太鼓3種計5台とバチ3種計20組・カプラ5箱

1. 保育計画策定の目的

開園2年目でまだ年長児の定員が埋まらない中、未整備の保育用品や遊具の中でも、最も子どもたちの想像力と意欲を刺激し、夢中になれるツールとして、和太鼓一式とカプラ一式を購入させていただきました。保育歴の浅い幼児クラスの子どもたちに、短期間に心を揺さぶられる体験を提供するのが目的でした。

2. 具体的な実施内容

<和太鼓について>

2021年度は、開園初年度に4歳児で入園した子どもたちが7人と2021年度から5歳児で入園



した2名、計9名の年長児クラスで、ひとり親家庭など、丁寧な家族支援を要する子どもが多くいました。

本物の長胴・平胴太鼓が到着して荷解きをしたとき、子どもたちから歓声が上がりました。太鼓センターから講師を招いて、バチの持ち方や足の構え方などの基本から教わり、思いっきり芯を打つとおなかの中にまで振動が伝わってくる迫力に魅了されました。

卒園前には、簡単な構成ならみんなの音が一つになる気持ちよさを味わいましたが、コロナ禍で生活発表会が中止になり、保護者に披露するには至りませんでした。



その様子をあこがれながら見ていた年中児は、太鼓を触って振動を体感したり、年長児の演奏姿を絵に描いたりして早くから太鼓に親しみました。



2022年度は、開園初年度に3歳児で入園した子が6人と、8月から日本に来た外国籍の子ども、計7人の年長児クラスになりました。いよいよ自分たちの出番とばかり春から太鼓に食いつき、秋に講師が来ると運動会にやった「忍者修行」を思い出して、準備運動

にも真剣に取り組みました。後輩たちが見守る中で「ニンジャ、ニンジャ、ニンジャデゴザル」という口唱歌（リズムを覚えるための掛け声）にあわせて、思いっきり忍者らしくふるまい、だんだん打音が揃ってきています。保育歴の浅い外国籍の子ども、和太鼓のリズムと忍者ごっこには目を輝かせています。



保護者へのお披露目は、3月25日の卒園式と決めました。つるばみ保育園にとっては二期目の卒園生になります。あとひと月余りの間、目白押しのいろいろな行事を経て友達との最後の保育園生活を謳歌し、和太鼓の演奏を通じて友達と気持ちを合わせる喜びや達成感を味わい、生涯の思い出を作っていってほしいと願っています。

<カプラについて>

カプラが到着した日、3階ホールに運び込まれるのを見て、職員がどよめきました。さっそく3歳児クラスがホールに上がり、それを見て4・5歳児クラスも合流して、自由に積み上げや積み木崩しを楽しみました。低年齢児クラスは、各保育室に一箱ずつ持ち込んで、並べたり積んだり、崩れる音を楽しんだり、職員も一緒になっていろいろな構成遊びを行いました。それ以来、保育園で長時間生活する子どもたちにとって、夕方の合同保育の時間帯でもホールで自由にカプラを出して遊べるのが、どの年齢もワクワクする楽しみごとになっていきました。

カプラインストラクターを招いて、保護者と一緒に遊ぶ「冬まつり」の行事を企画していましたが、2022年の初春はコロナ禍の第6波にぶつかり、中止せざるを得ませんでした。その後、第7波を乗り切った2022年の11月17日、0歳児から2歳児までの保育参観の一環として、インストラクターを呼んでの乳児向けイベントが実現しました。カプラの魅力に保護者も夢中になり、大好評の保育参観でした。



今日はママと一緒にだよ



引き続き幼児版の親子イベントを企画しましたが、残念ながらコロナ第8波が始まり、再び保護者参加は断念せざるを得なくなりました。やむを得ず日常保育の中でインストラクターを招き、1月26日、3歳児から5歳児の子どもたちのカプラ祭を行いました。あらためて白木の板の使い方を、「寝てるクン」「起きてるクン」「立ってるクン」という三つのネーミングで教わり、「友達の作っているものを壊さないこと」「間違って壊したらちゃんと謝ること」「誰かが間違って自分のを壊しても許してあげてまた作ること」「投げたりしないで優しく扱うこと」の約束をしました。



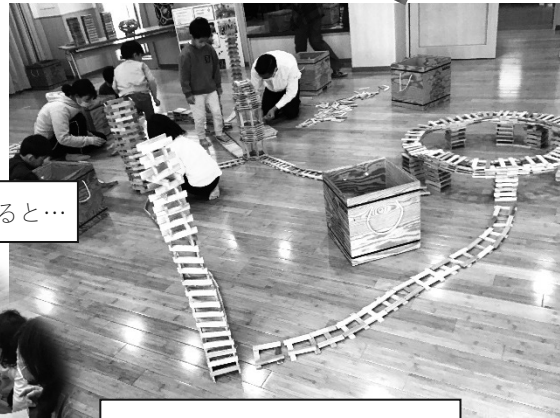


カプラまつりの様子

思い思いに作ったよ



みんなで力を合わせると…



部屋いっぱいの街ができたよ



3. その成果と評価

和太鼓の合奏は、腕の力、足腰の力、体幹の力、リズム感、聴きあう力、心を合わせる力、それらすべてを育てる取り組みでした。2021年度の卒業生は、わずか3か月の間に和太鼓が大好きになり、それを見て育った2022年度の年長児は、年度初めからやる気満々でした。日常保育がコロナ禍によって制限され、遠出の山登りなどもあきらめてきた中で、和太鼓の魅力が、腕、足腰、体幹を使う格好の機会を与えてくれました。日本語の不自由な外国籍の子どもも、リズム感、聴きあう力、心を合わせる力では引けを取らず、自信をもって取り組み、みんなの中で一目置かれました。

カプラは、自由な発想であらゆるものを自在に表現することができ、子どもたちのイメージと創造意欲を激しくゆさぶります。子どもたちは知らず知らずのうちに集中力、器用さ、コミュニケーション能力など、様々な力を総合的に身につけます。大人たちも夢中に

なりますが、子どもたちの発想力に脱帽することもしばしばあり、普段の保育がダイナミックに展開する大きな要素となりました。言葉で表現することの苦手な吃音のある子どもが、初めから頭の中に設計図があるかのようにどんどん新しい積み方で構成していき、みんなから褒められて自信を深める場面がありました。軽い発達障害のある子も、一生懸命バランスをとって積み上げることを楽しみ、微細な手指操作を経験しました。また別の子は、自分の背丈より高く高く積み上げていたタワーを友達に壊されても、一切動揺を見せずにもう一度コツコツやりなおしてくれました。カプラは、子どもたちの中に静かな自信や誇りを醸成する教材でもあったことを、私たちは子どもたちから学びました。

4. 今後の課題と展望

2023年度の年長児は、やっと本来の定員を満たし、14名のクラスになる予定です。3歳児の時から年長児の和太鼓の取り組みを見聞きし、カプラで思いっきり遊ぶことを経験してきた子どもたちにとって、和太鼓とカプラは自分たちの生活の中にある普通の文化財になっています。保育士たちも、プロの太鼓講師とカプラインストラクターの指導に接して、自分たちが子どもたちと遊ぶためのスキルを学び、様々に身につけてきました。

これからが積み重ねの発揮しどころです。コロナ禍であきらめざるを得なかった保護者参加の親子祭りや、地域のお年寄りを招いてのあそび会、未就園児とその保護者を招いてのママカフェなど、あらゆる機会に和太鼓とカプラが登場する予定です。

社会福祉法人どんぐり福祉会は、前身のどんぐり共同保育所が無認可で設立されてから、2023年11月に50周年を迎えます。その記念行事に、プロのオペラ「あまんじやくとうりこひめ」を招聘上演するのですが、前座で職員による和太鼓演奏「三宅島太鼓」を披露します。本助成事業で購入したピカピカの和太鼓が、東大阪市立文化創造館の舞台を飾ることになります。50年の間、うんと貧乏な時も、子どもたちが接する文化・芸術は本物を、と取り組んできた当福祉会にとって、新設した保育園の充実にお力添えいただいたことは、重要な画期を与えていただいたものと深く感謝いたしております。

以上